

こども園評価の報告書（認定こども園豊栄保育園）

評価項目	取り組み状況
<p>教育・保育方針 全体計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼、職員会、園内研修の場を通して、「限りなく伸びていく可能性を秘めた子どもたちが、現在を最も良く生き、望ましい未来をつくりだす力の基礎を養う」という基本理念を基に、全職員、教育目標・保育方針を確認し、子どもたちが生活や遊びや保育活動の中で自ら考え、積極的な意思表示や意欲的に他者と関わられるようになるための保育について、学びを深めた。 ・食育活動、わらべ歌遊び、英会話、体操教室の他、ハサミなどの道具を使った制作活動、教材を使った線のワークから文字の練習、就学に向けて椅子に座って机で行う活動時間の拡大など、計画に基づいて取り組んでいる。 ・来年度の保育事業研究大会の発表のテーマが「保育の営みをいかに社会に発信するか」ということで、保育・教育内容を社会へ発信するための方法を模索し、現在取り組んでいる園・クラス便り、ホームページ、ブログ等の活用方法の充実と拡大、子育て支援センターと連携し、地域の子育て家庭への保育の発信などを計画している。
<p style="text-align: center;">健康支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインシステム「コドモン」を活用し、登園前までの自宅での様子（食事、睡眠、健康状態等）保護者に入力してもらうことで、園児一人一人の健康状態を家庭との日常連携のもと把握できた。また、職員間で園児一人一人の健康状態、家庭からの園児の情報を共通理解するよう努めた。 ・「保健年間計画」に基づき、園医による総合的な健康診断、歯科検診などを通して園児一人一人の健康状態を把握し、各年齢のクラス担任と看護師が連携を図り、健康管理を行った。 ・保護者には、園児と家族を含めた健康観察をお願いし、感染症の感染拡大防止に努めた。 ・保護者とのコミュニケーションを図り、家庭状況や健康状態の把握を連携しながら行えるよう努めた。
<p style="text-align: center;">安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検では火災（水消火器を使った消火訓練を含む）地震 洪水・不審者の侵入などを想定して訓練を行った。その都度担者を中心に課題や改善点を出し合った。 ・園内の安全点検や修繕、避難訓練、アレルギー対応等を全職員で点検やマニュアル確認を定期的に行っている。 ・施設の安全点検は毎月1回複数の職員で行い、修繕及び改善につなげた。 ・自然災害では想定外のことも起こりうるので、水害も含めた災害時対応マニュアルの再確認や職員への周知徹底をした。
<p style="text-align: center;">食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園敷地内の菜園でトマト、大根、枝豆、じゃがいも、小松菜、スティックカリフラワーなどを園敷地外の畑でサツマイモを栽培した。 収穫した野菜は、クッキングの活動で使用した。未満児のクッキング活動として、コロケに使用するじゃがいもつぶし、以上児のクッキング活動では、大根の塩こぼ和えや豚汁づくりに取り組んだ。 その他の収穫した野菜は給食で提供した。とれたての旬の野菜の香りやおいしさを味わえたことや自分たちが育てたということで、子どもたちが野菜に興味を持ったり、嫌いだっ野菜も少し食べてみようかと挑戦したりして、食べられる食材が増えた子どもも複数みられ、活動の成果が感じられた。 ・各クラスで、年齢に応じた絵本や紙芝居等を通して食への興味・関心が育まれるようにしてきた。
<p style="text-align: center;">関係者評価の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談苦情の第3者委員会の報告会では、「保護者の要望や相談や苦情に対して、真摯に向き合い、改善するためのマニュアルを作成して、対応を改善し、統一するなど誠実に対応している。現在の対応を継続して、誠意をもって、こどもや保護者に向き合っていくように。」という助言をいただいた。

<p>子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所している 子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・入所している子どもの保護者とは、保育ICTシステム「コドモン」を使い、日々の連絡のやり取りや登・降園時に子どものことを伝え合い信頼関係を築き、子育てに悩みや不安がある時は適宜、面談を持ち、話を聞くようにした。 ・園児、保護者、それぞれ個々の状況を的確に把握することに努め、必要に応じて福祉課保健師や訪問発達支援の作業療法士の先生や療育施設などの専門機関と連携し情報提供したり、子育ての不安や悩みについて共に考えたりするようにした。 ・子育て家庭の支援では、出産時にきょうだいを一時預かりをしてほしいという相談を受け、支援を行った。
<p>教育・保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育に加えて、訪問発達支援の作業療法士の先生による指導を通して、保育教諭と子どもの価値観や感じ方には違いがあり、職員が自分の価値観を当たり前として捉えず、柔軟な発想をもって違う意見を言える場があり、違いを認め合える集団を作っていくことの重要性を学んだ。 ・感染予防に関する知識を子どもたちと共に学び、手洗いや消毒に努め、感染予防についての意識を高めることが出来た。 ・感染予防対策についての園内研修や発熱、体調不良時の対応のフローチャートを作成し、健康観察、維持管理に努めた。 ・園児が保育教諭との信頼関係の中で、安心して園生活を送り、遊びを通して友だちとの関係を深め、人とつながり生きる力の基礎を培うことが出来るような教育保育を目指してきた。
<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携を密にし、また、訪問発達支援の作業療法士の先生による発達相談を通して、保護者の困り感や願いや思いを十分受け止めた上で子どもを中心に据えて、支援を進めていくようにした。 ・「個別の支援計画」については、保護者の思いを大切にすることを基本に作成した。また、保護者との信頼関係を築いていくために、情報の共有を大切にすること口頭、個人連絡帳での伝え合いに努めた。
<p>職員の資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育、幼児教育、障害児保育、保護者支援、食育、保健衛生・安全対策などのキャリアアップ研修を受けた各分野のリーダー、マネージャーを中心に、各分野ごとの園内研修を計画、実施した。 ・園内での子どもの姿を話し合う中でクラスの課題を明確にし、子どもの理解を深めると共に、活動内容や職員の関わり方等を考えていった。 ・外部講師を呼び、「不適切保育防止」、「食を楽しむための食育、食事介助」などのテーマで研修を行った。 ・職員に受けたい研修についての希望を募り、オンライン研修を活用して、保育の質の向上や、業務負担の軽減、業務改善につながるよう努めた。
<p>幼保小中の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡会に参加し、具体的な事例を挙げながら意見交換し、それぞれの施設の役割や課題について考えた。また、切れ目のない支援をしていくために、どうつながりを作っていくかということが討議された。 伝え合いを大切にすることを確認した。 ・就学前の子どもの状況については、小学校と連携を深めてきたが、入学以降の連携についてはまだ不十分なところもあるので、今後の課題にしていきたい。
<p>・保護者支援・保護者の自己決定の尊重・接遇</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から相談を受け面談をする際に、保護者の困り感や思いを傾聴し、保育園での様子や専門機関からの助言や選択肢などの情報提供をし、結論を急がず、保護者が十分検討し、決定できるまで待つという姿勢で支援した。

以上のとおり報告します。

令和6年4月1日

認定こども園豊栄保育園

園長 中村博樹